

海老名市 平成 28 年度一般会計決算概要

前を見て進む 海老名

～ まち・ひと・しごとの好循環の確立へ ～

決算の状況

- 一般会計歳入決算額 397億6,141万9,190円
(前年度比27億7,968万3,380円、6.5%の減)
- 一般会計歳出決算額 382億8,063万4,401円
(前年度比28億3,442万3,317円、6.9%の減)



歳入（一般会計）

- 市 税：224億1,600万円（前年度比6億8,300万円、3.1%増）
 - うち個人市民税 84億9,800万円（前年度比8,800万円、1.0%増）
 - うち法人市民税 15億8,600万円（前年度比3,800万円、2.5%増）
 - うち固定資産税 99億9,300万円（前年度比4億8,000万円、5.0%増）
- 国・県支出金：88億5,600万円（前年度比1億5,500万円、1.8%増）
- 繰入金：4億6,800万円（前年度比4億5,400万円、49.2%減）
- 市 債：19億2,000万円（前年度比17億9,600万円、48.3%減）

歳出（一般会計）

- 義務的経費：195億9,400万円（前年度比7億3,900万円、3.9%増）
 - ・人件費：69億5,300万円（前年度比1億2,700万円、1.9%増）
 - ・扶助費：99億6,000万円（前年度比5億2,300万円、5.5%増）
 - ・公債費：26億8,100万円（前年度比9,000万円、3.5%増）人件費、扶助費及び公債費がいずれも増額となりました。義務的経費は今後も増加が見込まれ、財政構造の弾力性確保の点から、今後も注視が必要です。
- 普通建設事業費：40億1,600万円（前年度比27億4,500万円、40.6%減）
普通建設事業費は、平成27年度に海老名駅西口公共施設整備事業や中央図書館大規模改修事業が完了したことなどから大幅な減少となりました。

平成28年度の主な取り組み

平成28年度は、「まち・ひと・しごとの好循環」の確立に向けた「かがやき持続総合戦略元年」として、今の市民に愛され続けながら、将来の市民からも愛されるまち「えびな」を実現するため、10年先を見据えながらも、着実に一步一步を刻む、「前を見て進む 海老名 ～健全財政の維持～」をキャッチフレーズに当初予算を編成しました。

その後、市の政策や国の補正予算に適時適切に対応するため、11回にわたる補正予算を通じて「かがやき持続総合戦略事業」のほか、ハード・ソフト両面にわたる事業を力強く推進しました。

(1) かがやき持続総合戦略事業

基本目標 1

若者の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

- 子育ての「年齢別サロン」、「移動サロン」の拡充 2,100万円

子育て支援センターにおいて、子育て中の保護者及びその子どもを対象に、子ども達が自由に遊ぶことができる場と親同士が気軽に交流できる場を提供するとともに、関係機関と協力し子育てを支援しました。



移動サロン等の様子



基本目標 2

まちのかがやきを持続する拠点性を高める

- 駅前施設整備の推進 1,000万円

地域拠点である市内各駅前において、歩行者の利便性向上やにぎわいの創出など、周辺都市施設のあり方について周辺の環境変化を見極めながら、調査・検討を実施しました。なお、平成28年度は、相鉄線海老名駅北口改札設置に伴う北口広場整備に係る不動産鑑定、さがみ野駅周辺の土地利用の設計調査などを実施しました。

基本目標 3

元気な産業活動を支えるまちの基盤づくり

- 地域営農活動の促進 6,700万円

農業としての新鮮な野菜の供給だけでなく、緑と景観の維持など都市農業の持つ多面的な機能を維持するため、市内農業経営の安定、優良な農地の維持保全を目的として、農家への助成を実施しました。



基本目標 4

まちの魅力向上とシティセールスの推進

- にぎわい振興事業の推進 900万円

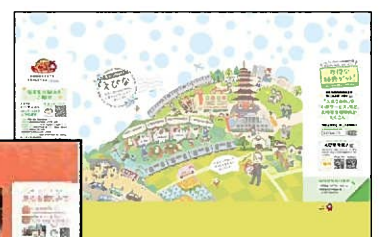
平成28年7月に策定した「にぎわい振興計画」に基づき、名店・名製品の認定事業、ブックカバーを活用したPR事業などを実施し、にぎわいの創出・振興を図りました。



名店・名製品認定事業
ロゴステッカー



ブックカバーデザイン



(2) 海老名駅東西一体のまちづくり

● 相模鉄道海老名駅の駅舎の建て替え 7,500万円

海老名駅北口の新設のほか、連絡通路及び駅施設の改善による駅利用者等の混雑緩和、生活支援機能の設置などの駅総合改善事業を実施し、駅施設利用者の安全性及び利便性の向上を図ります。



(3) 将来を担う子どもたちへのまちづくり

● 特別支援教育充実事業の拡充 8,500万円

学習面の支援を行う補助指導員、身辺処理や移動等の補助や介護を行う介助員・看護介助員の配置、日本語習得を目的とした講師や言語聴覚士による巡回指導を実施しました。

(4) 誰もが安心して暮らせるまちづくり

● 生活困窮者自立支援事業の実施 100万円

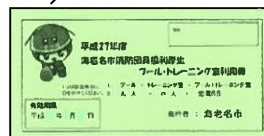
生活困窮者の自立を促すため、主任相談支援員、就労支援員を配置し、生活困窮者からの相談をもとに、ニーズに応じた支援計画を作成し、関係機関と連携を図りながら、生活困窮状態からの早期脱却するための支援を実施しました。

(5) 安心・安全なまちづくり

● 消防団の充実強化の推進 100万円

積極的な消防団員募集の広報活動を行うとともに、消防団員応援の店制度や市内公共スポーツ施設利用助成を行い、消防団員とその家族の福利厚生に充実を力を入れて取り組みました。

公共スポーツ施設利用助成券



ステッカー



(6) 地域経済の活性化、地域力アップのまちづくり

● 都市農業などの促進 900万円

市内大手量販店に期間限定の海老名産農産物直売コーナーを設置するとともに、農産物直売イベントや地産地消のPRを行い、地元での海老名産農産物の販売を促進することにより都市農業を営む生産者の経営安定や市内農業の活性化を図りました。

大型店の海老名産農産物コーナー



(7) 自然と環境にやさしいまちづくり

● ごみの減量化、資源化に向けて 300万円

ごみの減量化、資源化を図るため、家庭用の生ごみ処理機購入者に対する補助及びごみ減量意識の啓発事業を展開しました。また、大型生ごみ処理機モデル事業を、市役所及び公立保育園で実施しました。

海老名キユーロ



(8) 心ふれあうスポーツ・文化のまちづくり

● 東京オリンピック・パラリンピック強化指定選手への支援 100万円

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が終了するまでの期間、経済的な支援を行うことにより、競技力のさらなる向上や競技に取り組むための環境整備を支援するとともに、市民のスポーツに対する関心を高め、高度スポーツの普及を図ります。



(9) 健全財政を維持し、持続可能な都市経営によるまちづくり

● ふるさと納税に対する返礼品の開始 4,800万円

市外の方からの寄附による歳入の確保、市の魅力のPR及び地域経済の活性化を図りました。

基金及び市債残高の状況

- 基金残高は61億10百万円（前年度比54百万円、0.9%の減）となりました。また、市債残高は一般会計分が270億28百万円（前年度比4億36百万円、1.6%の減）と過去最高だった平成27年度より減少しました。
- 市民一人当たりの基金残高は44,305円で、政令市を除く県内16市においては6番目に多い金額となる見込みです。また、特別会計分を含めた市債の市民一人当たり残高は、307,936円となり、県内16市においては最も少ない金額を堅持する見込みです。

（単位：千円）

区分	平成28年度	平成27年度	増減額	増減率(%)
基金残高	6,110,302	6,163,903	△53,601	△0.9
市債残高	40,404,111	41,311,846	△907,735	△2.2
一般会計分	27,027,556	27,463,664	△436,108	△1.6
下水道事業特別会計分	13,376,555	13,848,182	△471,627	△3.4

※特別会計で管理する基金は除いております。

財政力指数及び経常収支比率

- 平成28年度の財政力指数（単年度）は1.015（前年度比0.017ポイント増）となり、6年ぶりに普通交付税の不交付団体となりました。
- 経常収支比率は、経常的に支出される経費が増加したことなどにより、93.9%（前年度比1.6ポイント増）となり、依然として高水準で推移しています。

区分	平成28年度	平成27年度	増減
財政力指数(3ヵ年平均)	1.001	0.992	0.009
財政力指数(単年度)	1.015	0.998	0.017
経常収支比率(%)	93.9	92.3	1.6
実質収支比率(%)	4.5	4.2	0.3

※実質収支比率は、決算統計に基づき算定しております。

健全化判断比率及び資金不足比率

- 健全化判断比率及び資金不足比率については、いずれの比率も国が定めた早期健全化基準を大きく下回っており、本市の財政の健全性は、財政健全化法上も問題ないこととなりました。

【健全化判断比率】

	健全化判断比率	早期健全化基準
実質赤字比率	－(赤字なし)	12.19%
連結実質赤字比率	－(赤字なし)	17.19%
実質公債費比率	0.9%	25.0%
将来負担比率	10.8%	350.0%

【資金不足比率】

公営企業会計名	資金不足比率	経営健全化基準
下水道事業特別会計	－(資金不足なし)	20.0%